

現行の教職大学院カリキュラムに関する実態調査

この調査は、今後の教職大学院におけるカリキュラムイメージの構築に向けて、これまでの取り組みの成果と課題を明らかにしたうえで、これからの教職大学院にふさわしい共通 5 領域の充実方策を検討するためのものであり、文部科学省先導的・大学改革推進委託事業として全国の教職大学院を対象に実施するものです。

回答内容は、ご回答された大学が特定されないよう処理し、調査目的以外の目的に使用することはありませんので、ご理解のうえ、ご回答くださいますようお願い申し上げます。

また、この調査にあたっては日本教職大学院協会の協力を得て行うものであることを申し添えます。

なお、ご質問等がございましたら、下記までお問い合わせください。

平成 25 年 11 月 〇〇 日

今後の教職大学院におけるカリキュラムイメージに関する調査研究

代表者：兵庫教育大学 副学長 福田光完

事務局：兵庫教育大学 総務部企画課

大学改革推進チーム

兵庫県加東市下久米 9 4 2 - 1

e-mail: office-kaikaku-t@hyogo-u.ac.jp

〈アンケートの返送について〉

アンケートについては、お手数ですが 11 月 25 日（月）までに、同封の返信用封筒をお使いいただき返送くださいますようお願いいたします。

・貴教職大学院について、お答えください。

貴教職大学院名 _____

設置コース名	各コースの定員数
	名
	名
	名
	名

*回答される方の部署・役職名・氏名・連絡先をご記入ください。

部署名	:
役職名	:
氏名	:
連絡先	:
(TEL 又は E-mail)	

貴教職大学院カリキュラムの共通5領域に関する取り組み状況についてお尋ねします。
*本質問紙は実態調査であり、カリキュラムに関する評価等の観点は含まないことをご留意ください。

Q1:教育課程の編成・実施に関する領域について、あてはまるものをお選びください。

	取り組んでいる	どちらかと言え ば取り組んでいる	どちらかと言え ば取り組んでいない	取り組んでいない
Q1-1:学習指導要領と教育課程の編成実施について	4	3	2	1
Q1-2:個に応じた指導の充実について	4	3	2	1
Q1-3:指導と評価の一体化、教育課程の自己点検・自己評価について	4	3	2	1
Q1-4:総合的な学習の時間の全体計画の内容と取り扱い(各教科・道徳・特別活動との関連、学年間や学校段階間の指導との関連への配慮を含む。)	4	3	2	1
Q1-5:上記の項目以外に取り組んでいる事項があれば記入してください				

Q2:教科等の実践的な指導方法に関する領域について、あてはまるものをお選びください。

	取り組んでいる	どちらかと言え ば取り組んでいる	どちらかと言え ば取り組んでいない	取り組んでいない
Q2-1:教科等の意義・目的(教科間の関連指導の工夫を含む。)	4	3	2	1
Q2-2:授業計画(学習指導案の作成)	4	3	2	1
Q2-3:教材研究(教材の収集・選択・分析、教材化の工夫など)	4	3	2	1
Q2-4:指導方法(授業構成・授業形態の工夫【少人数指導や習熟度別指導など、個に応じた指導等】を含む。)	4	3	2	1
Q2-5:指導と評価(テスト等の作成、評価の在り方)	4	3	2	1
Q2-6:上記の項目以外に取り組んでいる事項があれば記入してください				

Q3:生徒指導、教育相談に関する領域について、あてはまるものをお選びください。

	取り組んでいる	どちらかと言え ば取り組んでいる	どちらかと言え ば取り組んでいない	取り組んでいない
Q3-1:子ども理解の内容と方法(思春期等に見られる心身症、精神疾患等に関する知識を含む。)	4	3	2	1
Q3-2:子どもの社会的・情緒的発達を促す指導について	4	3	2	1

Q3-3: 教員と子ども、子ども相互の人間関係について	4	3	2	1
Q3-4: 子どもの健全育成の取組みについて	4	3	2	1
Q3-5: ガイダンスの機能と教育相談の充実について	4	3	2	1
Q3-6: 問題行動等に関する事例研究について	4	3	2	1
Q3-7: 学校における生徒指導体制について	4	3	2	1
Q3-8: 家庭、地域や関係機関との連携について	4	3	2	1
Q3-9: 子どもの進路発達を促す指導援助体制について	4	3	2	1
Q3-10: 上記の項目以外に取り組んでいる事項があれば記入してください。				

Q4: 学級経営、学校経営に関する領域について、あてはまるものをお選びください。

	取り組んでいる	どちらかと言えは 取り組んでいる	どちらかと言えは 取り組んでいない	取り組んでいない
Q4-1: 学級経営の内容と果たす役割について	4	3	2	1
Q4-2: 学級経営と学校経営(学年経営案、学年会、学校行事など)について	4	3	2	1
Q4-3: 保護者と連携を図った学級経営について	4	3	2	1
Q4-4: 学校組織、校務分掌とその機能について	4	3	2	1
Q4-5: 校内研修の意義・形態・方法について	4	3	2	1
Q4-6: 開かれた学校づくり(家庭や地域社会との連携、学校間交流の推進、学校経営と学校評議員、情報公開と説明責任)について	4	3	2	1
Q4-7: 学級・学校経営と評価について	4	3	2	1
Q4-8: 上記の項目以外に取り組んでいる事項があれば記入してください。				

Q5: 学校教育と教員の在り方に関する領域について、あてはまるものをお選びください。

	取り組んでいる	どちらかと言えは 取り組んでいる	どちらかと言えは 取り組んでいない	取り組んでいない
Q5-1: 学校と社会(社会における学校教育の位置づけ、学校教育の役割、学校教育が抱える課題等の俯瞰)について	4	3	2	1
Q5-2: (上記のような学校における)教員の社会的役割と社会的・職業的倫理について	4	3	2	1
Q5-3: (上記のような社会、学校における)教員に必要なコミュニケーション論(対子ども、保護者、同僚、学校外【関係機関、広く社会】)について	4	3	2	1
Q5-4: 上記の項目以外に取り組んでいる事項があれば記入してください。				

Q6: その他の領域について、あてはまるものをお選びください。

	取り組んでいる	どちらかと言え ば取り組んでいる	どちらかと言え ば取り組んでいない	取り組んでいない
Q6-1: 特別支援教育に関する内容について	4	3	2	1
Q6-2: 幼児教育に関する内容について	4	3	2	1
Q6-3: ICT教育に関する内容について	4	3	2	1

Q6-4: 上記3項目において、既に共通5領域で取り組んでいるものがあれば、その項目内容と領域の位置づけを記入してください。

Q6-5: 上記の項目以外に取り組んでいる事項があれば記入してください。

今後の教職大学院カリキュラムに関して、ご意見・ご要望がございましたら、下記にご記入ください

『現行の教職大学院カリキュラムに関する実態調査』アンケート簡易集計・図の記載

○回答教職大学院の概要

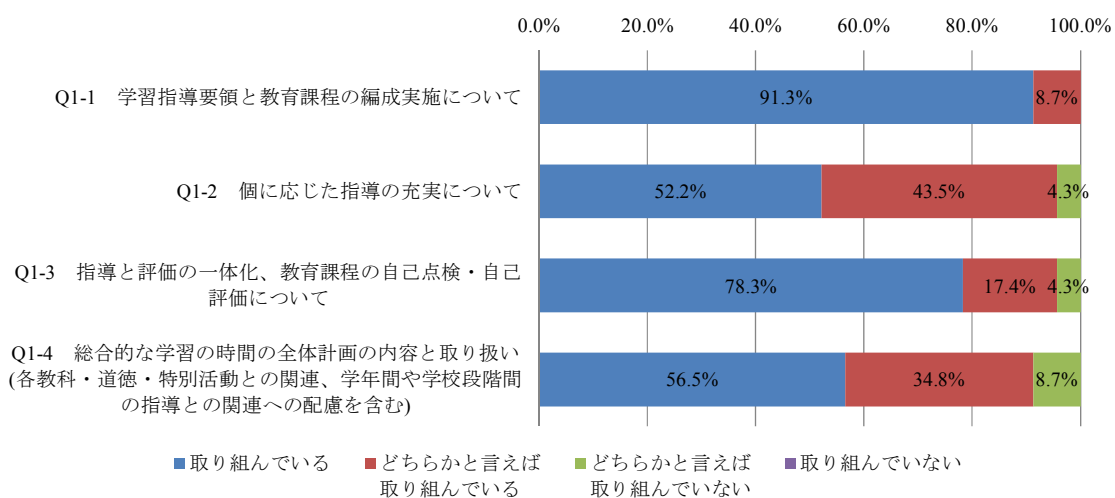
全国 25 の教職大学院に調査用紙を配付し、23 の教職大学院（92%）より回答がなされた。無回答データは、全くないものだった。

○簡易集計の視点

共通 5 領域を構成する領域ごとに百分率を示した図を記載。なお、各項目の基本統計量も示した。

Q1：教育課程の編成・実施に関する領域について、あてはまるものをお選びください。

教育課程の編成・実施に関する領域を構成する各質問項目に対して、4 件法（4. 取り組んでいる／3. どちらかと言えば取り組んでいる／2. どちらかと言えば取り組んでいない／1. 取り組んでいない）の回答データを得点と見なし、各項目に対する得点の割合を示した。また、各項目の基本統計量も示した。



	取り組んでいる	どちらかと言えば 取り組んでいる	どちらかと言えば 取り組んでいない	取り組んでいない	平均値	標準偏差
Q1-1	91.3%	8.7%	0.0%	0.0%	3.91	0.28
Q1-2	52.2%	43.5%	4.3%	0.0%	3.48	0.58
Q1-3	78.3%	17.4%	4.3%	0.0%	3.74	0.53
Q1-4	56.5%	34.8%	8.7%	0.0%	3.48	0.65

⇒教育課程の編成・実施に関する領域については、4 項目全てにおいて 90%以上の教職大学院で（「取り組んでいる」と「どちらかと言えば取り組んでいる」を加えた）肯定的な回答がなされていた。

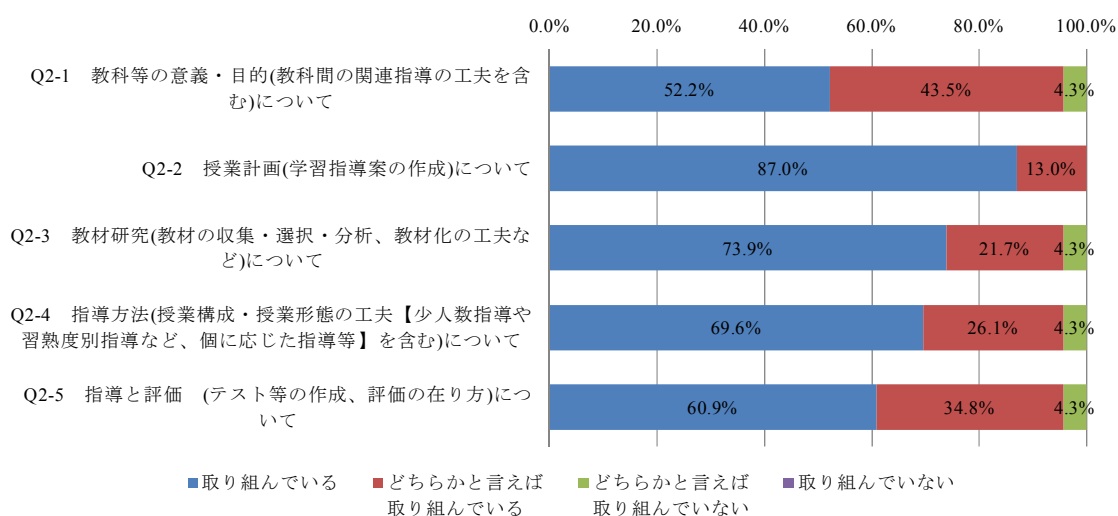
Q1-5：上記の項目以外に取り組んでいる事項があれば記入してください。

6つの回答が得られた〔以下の回答は、記述どおりに記載を行っている〕。

- ・校内での研究・研修
- ・すべて学校実習と関連して実施
- ・授業分析の事例研究／ワークショップ型教材開発
- ・教務主任のミドルリーダーシップに関する事項
- ・「カリキュラム類型」「特色あるカリキュラム開発」
- ・小・中連携

Q2：教科等の実践的な指導方法に関する領域について、あてはまるものをお選びください。

教科等の実践的な指導方法に関する領域を構成する各質問項目に対して、4件法（4. 取り組んでいる／3. どちらかと言えば取り組んでいる／2. どちらかと言えば取り組んでいない／1. 取り組んでいない）の回答データを得点と見なし、各項目に対する得点の割合を示した。また、各項目の基本統計量も示した。



	取り組んでいる	どちらかと言えば取り組んでいる	どちらかと言えば取り組んでいない	取り組んでいない	平均値	標準偏差
Q2-1	52.2%	43.5%	4.3%	0.0%	3.48	0.58
Q2-2	87.0%	13.0%	0.0%	0.0%	3.87	0.34
Q2-3	73.9%	21.7%	4.3%	0.0%	3.70	0.55
Q2-4	69.6%	26.1%	4.3%	0.0%	3.65	0.56
Q2-5	60.9%	34.8%	4.3%	0.0%	3.57	0.58

⇒教科等の実践的な指導方法に関する領域については、5項目全てにおいて95%以上の教職大学院で（「取り組んでいる」と「どちらかと言えば取り組んでいる」を加えた）肯定的

な回答がなされていた。

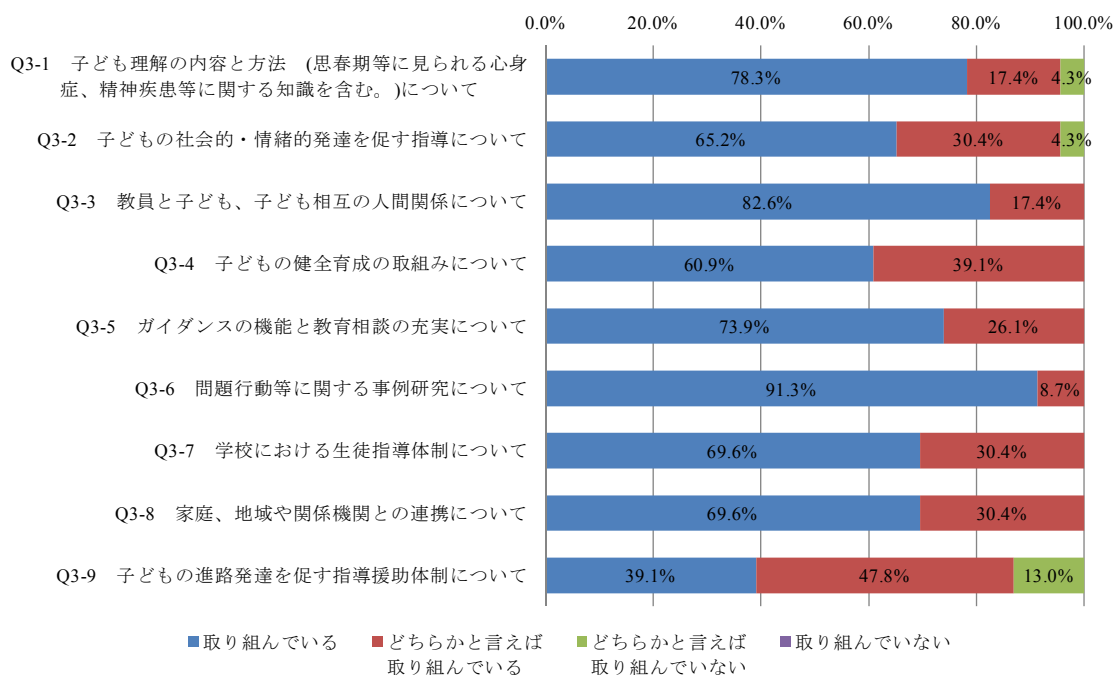
Q2-6：上記の項目以外に取り組んでいる事項があれば記入してください。

6つの回答が得られた [以下の回答は、記述どおりに記載を行っている]。

- ・授業記録の方法と校内研修での活用方法
- ・すべて学校実習と関連して実施
- ・校内授業研究システム改善。授業及び子ども理解の技法の開発と改善。
- ・学習指導案の分析、校内研修のあり方、外国籍の児童・生徒の指導、防災教育
- ・学習指導論の変遷、「生きる力」を育成する学習指導論
- ・「ポートフォリオによる評価と学びの連動」

Q3：生徒指導、教育相談に関する領域について、あてはまるものをお選びください。

生徒指導、教育相談に関する領域を構成する各質問項目に対して、4件法（4. 取り組んでいる／3. どちらかと言えば取り組んでいる／2. どちらかと言えば取り組んでいない／1. 取り組んでいない）の回答データを得点と見なし、各項目に対する得点の割合を示した。また、各項目の基本統計量も示した。



	取り組んでいる	どちらかと言えば 取り組んでいる	どちらかと言えば 取り組んでいない	取り組んでいない	平均値	標準偏差
Q3-1	78.3%	17.4%	4.3%	0.0%	3.74	0.53
Q3-2	65.2%	30.4%	4.3%	0.0%	3.61	0.57
Q3-3	82.6%	17.4%	0.0%	0.0%	3.83	0.38
Q3-4	60.9%	39.1%	0.0%	0.0%	3.61	0.49
Q3-5	73.9%	26.1%	0.0%	0.0%	3.74	0.44
Q3-6	91.3%	8.7%	0.0%	0.0%	3.91	0.28
Q3-7	69.6%	30.4%	0.0%	0.0%	3.70	0.46
Q3-8	69.6%	30.4%	0.0%	0.0%	3.70	0.46
Q3-9	39.1%	47.8%	13.0%	0.0%	3.26	0.67

⇒生徒指導、教育相談に関する領域については、9項目全てにおいて85%以上の教職大学院で（「取り組んでいる」と「どちらかと言えば取り組んでいる」を加えた）肯定的な回答がなされていた。

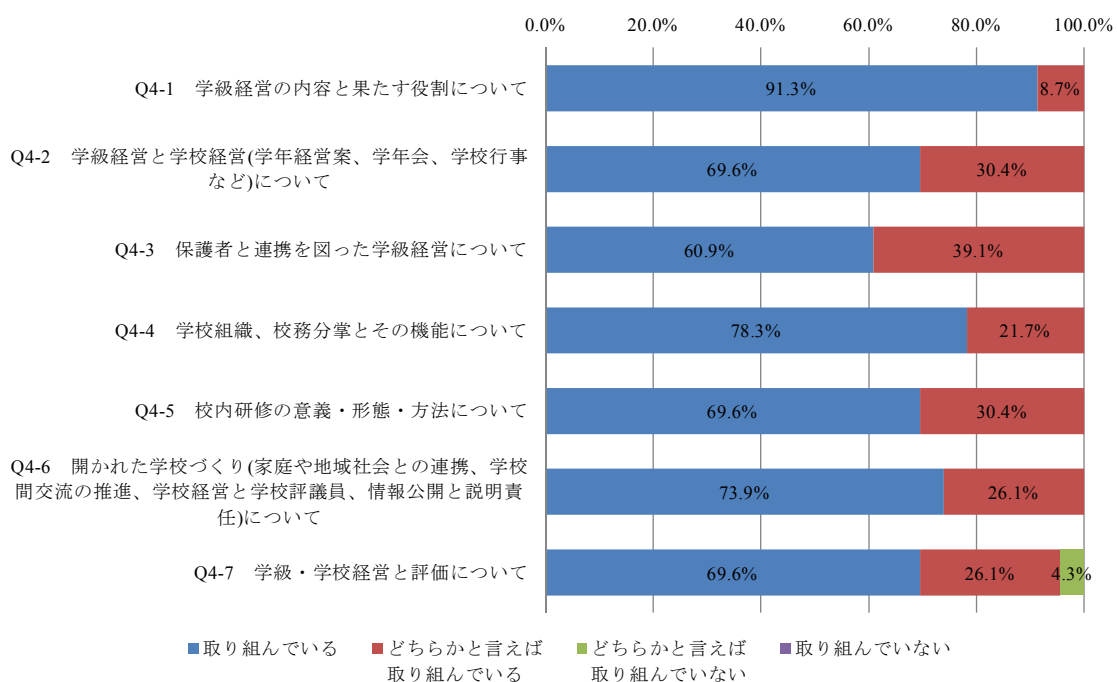
Q3-10：上記の項目以外に取り組んでいる事項があれば記入してください。

6つの回答が得られた〔以下の回答は、記述どおりに記載を行っている〕。

- ・生徒指導及び教育相談の最新事情（メディアの影響と生活習慣）
- ・すべて学校実習と関連して実施
- ・カウンセリング、コーチング
- ・「ピア・サポート実践論」「キャリア教育実践論」
- ・通常学級で支援を要する子どもの理解と指導。進路指導、キャリア教育の理論と実践について。
- ・問題行動と関連法規等の理解、発達障害児への教育的支援

Q4：学級経営、学校経営に関する領域について、あてはまるものをお選びください。

学級経営、学校経営に関する領域を構成する各質問項目に対して、4件法（4. 取り組んでいる／3. どちらかと言えば取り組んでいる／2. どちらかと言えば取り組んでいない／1. 取り組んでいない）の回答データを得点と見なし、各項目に対する得点の割合を示した。また、各項目の基本統計量も示した。



	取り組んでいる	どちらかと言えば取り組んでいる	どちらかと言えば取り組んでいない	取り組んでいない	平均値	標準偏差
Q4-1	91.3%	8.7%	0.0%	0.0%	3.91	0.28
Q4-2	69.6%	30.4%	0.0%	0.0%	3.70	0.46
Q4-3	60.9%	39.1%	0.0%	0.0%	3.61	0.49
Q4-4	78.3%	21.7%	0.0%	0.0%	3.78	0.41
Q4-5	69.6%	30.4%	0.0%	0.0%	3.70	0.46
Q4-6	73.9%	26.1%	0.0%	0.0%	3.74	0.44
Q4-7	69.6%	26.1%	4.3%	0.0%	3.65	0.56

⇒学級経営、学校経営に関する領域については、7項目全てにおいて95%以上の教職大学院で（「取り組んでいる」と「どちらかと言えば取り組んでいる」を加えた）肯定的な回答がなされていた。

Q4-8：上記の項目以外に取り組んでいる事項があれば記入してください。

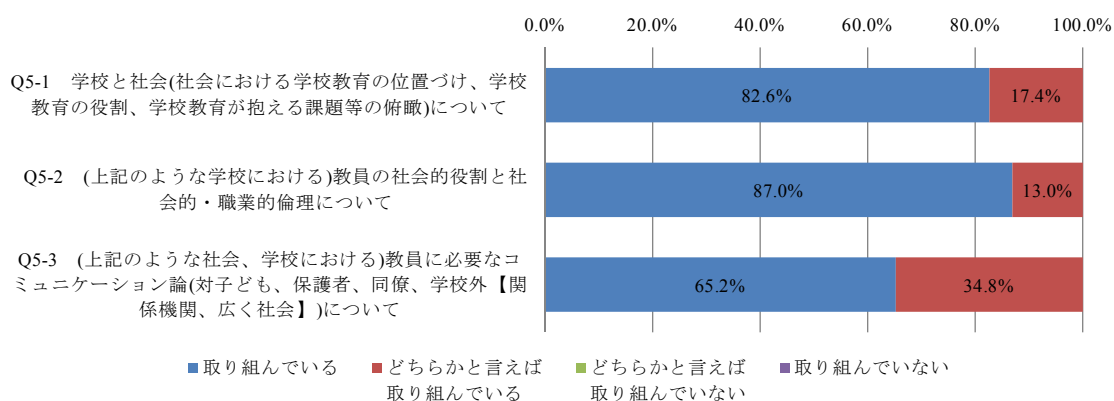
7つの回答が得られた [以下の回答は、記述どおりに記載を行っている]。

- ・すべて学校実習と関連して実施
- ・学校危機管理、山梨の学校改革
- ・学校の危機管理

- ・学級経営に生かす道德教育
- ・「ミドルリーダーの役割とメンタリングの手法」
- ・情報教育・ICT活用、危機管理、複式学級
- ・学校の危機管理

Q5：学校教育と教員の在り方に関する領域について、あてはまるものをお選びください。

学校教育と教員の在り方に関する領域を構成する各質問項目に対して、4件法（4. 取り組んでいる／3. どちらかと言えば取り組んでいる／2. どちらかと言えば取り組んでいない／1. 取り組んでいない）の回答データを得点と見なし、各項目に対する得点の割合を示した。また、各項目の基本統計量も示した。



	取り組んでいる	どちらかと言えば取り組んでいる	どちらかと言えば取り組んでいない	取り組んでいない	平均値	標準偏差
Q5-1	82.6%	17.4%	0.0%	0.0%	3.83	0.38
Q5-2	87.0%	13.0%	0.0%	0.0%	3.87	0.34
Q5-3	65.2%	34.8%	0.0%	0.0%	3.65	0.48

⇒学校教育と教員の在り方に関する領域については、3項目全てにおいて100%以上の教職大学院で（「取り組んでいる」と「どちらかと言えば取り組んでいる」を加えた）肯定的な回答がなされていた。

Q5-4：上記の項目以外に取り組んでいる事項があれば記入してください。

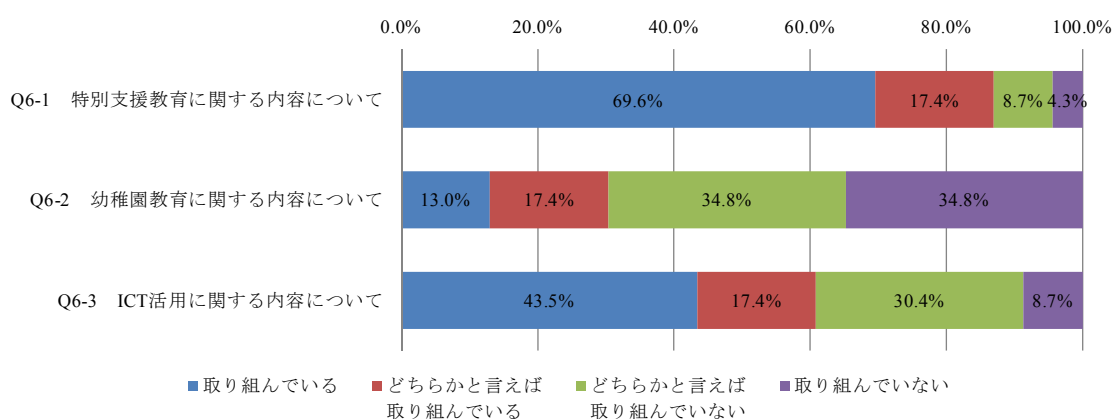
6つの回答が得られた [以下の回答は、記述どおりに記載を行っている]。

- ・学校の安全と防災教育
- ・外国人児童・生徒と日本語教育（コミュニケーション論）
- ・教育委員会制度、教育行政、社会変動と学校
- ・学校評価

- ・「学校危機管理論」
- ・教員の協働について

Q6：その他の領域について、あてはまるものをお選びください。

その他の領域を構成する各質問項目に対して、4件法（4. 取り組んでいる／3. どちらかと言えば取り組んでいる／2. どちらかと言えば取り組んでいない／1. 取り組んでいない）の回答データを得点と見なし、各項目に対する得点の割合を示した。また、各項目の基本統計量も示した。



	取り組んでいる	どちらかと言えば 取り組んでいる	どちらかと言えば 取り組んでいない	取り組んでいない	平均値	標準偏差
Q6-1	69.6%	17.4%	8.7%	4.3%	3.52	0.83
Q6-2	13.0%	17.4%	34.8%	34.8%	2.09	1.02
Q6-3	43.5%	17.4%	30.4%	8.7%	2.96	1.04

⇒その他の領域については、Q6-1「特別支援教育に関する内容について」において85%以上の教職大学院で（「取り組んでいる」と「どちらかと言えば取り組んでいる」を加えた）肯定的な回答がなされていた。Q6-2「幼稚園教育に関する内容について」において70%以上の教職大学院で（「どちらかと言えば取り組んでいない」と「取り組んでいない」を加えた）否定的な回答がなされていた。そして、Q6-3「ICT活用に関する内容について」において60%以上の教職大学院で（「取り組んでいる」と「どちらかと言えば取り組んでいる」を加えた）肯定的な回答がなされていた。

*その他の領域に関しては、どの項目においても『取り組んでいない』という回答がなされていた。Q6-2の幼稚園教育に関する内容は別として、昨今、「特別支援教育」や「ICT活用」の重要性が特に唱えられている。そのため、現在の教職大学院のカリキュラムの実態を踏まえた結果、「特別支援教育」や「ICT活用」に関する内容をよりカリキュラムの中に加味していく必要性も考えられる。

Q6-4：上記3項目において、既に共通5領域で取り組んでいるものがあれば、その項目内容と領域の位置づけを記入してください。⇒下記の回答を参考に、その他の領域を構成す

る3つの内容の位置づけを考察する。

15の回答が得られた[以下の回答は、記述内容を意味単位で分割した上で、記載を行っている]。

- ・特別支援教育については、学校教育と教員の在り方（特別支援コーディネータの役割）、生徒指導・教育相談（インクルーシブ教育に向けた生徒指導）。
- ・幼児教育については、学級経営・学校経営（幼・保・小とスタートカリキュラム）。
- ・ICT教育については、生徒指導及び教育相談の最新事情（メディアの影響と生活習慣）。
- ・特別支援の免許取得ができる。
- ・特別支援教育を共通必須科目としている（特別支援教育の理論と実践）。
- ・特別支援教育に関する内容はその他の領域
- ・ICTに関する内容は教科等の実践的な指導方法に関する領域
- ・特別支援教育に関する内容は、深化を図る科目「特別支援教育実践論」として取り組んでいる。
- ・ICT教育に関する内容は、Q2の領域で「授業方法と学習形態の工夫（ITの活用含む）」科目として取り組んでいる。
- ・教育実践研究の方法
- ・ICT教育については、前述のように、「学級経営・学校運営」の領域で採り上げている。
- ・特別支援教育－生徒指導・教育相談
- ・ICT教育－教育課程
- ・Q6-1は、Q3-1の児童・生徒理解で扱われている内容もある。
- ・Q6-3は、Q2-3の教材化の工夫としてICTの効果的活用についての学習も行われている

Q6-5：上記の項目以外に取り組んでいる事項があれば記入してください。

3つの回答が得られた[以下の回答は、記述どおりに記載を行っている]。

- ・多文化共生
- ・地域における教育課題に関する領域。共生教育論、学校危機管理論。
- ・人権教育と道徳教育に関する内容について、学校防災教育に関する内容について

Q：今後の教職大学院カリキュラムに関して、ご意見・ご要望がございましたら、下記に記入してください。

13の回答が得られた[以下の回答は、記述どおりに記載を行っている]。

○平成26年4月から、現在の2コースから4分野に組織換えを行う予定である。それに伴い、共通領域に特別支援教育に関する内容を位置付ける。「教科等の実践的指導方法」の領

域に「教材開発と児童生徒理解（特別支援教育系）」を、「学級経営・学校経営」の領域に「障害のある子どもの学校学級経営」を置く予定である。

○現職の入学者の年齢が若めになっていること、ストレートマスターの教育、という面から、本学としては特定分野への特化は望ましくないと考えている。

○教育学研究科の学生に比べて、教職研究科の学生は修了単位数も多く、カリキュラムが過密で、自分の頭や感性でじっくり考えたり、新しい授業展開を構想したりする時間的、精神的余裕に恵まれていないように思える。将来の教育界のリーダー養成をどうするか、検討して頂きたい。

○教育の理念や目的についての授業を入れるべきである。これがないと、単なるスキルや知識の羅列に終わり、それぞれを統合する視点を持ってない。

○学校を取り巻く社会状況について、現代社会がどのような社会なのか（グローバルゼーションとは何か、その中で、困難は一定の子どもに集中するが、それはなぜか等）を検討する必要がある。学校の内部だけで解決できない課題に、教師はどう取り組むのかも考えさせるべきである。

○調査の技法や、分析の仕方、論文の書き方なども選択として学ばせるべき（理論と実践の往還という取り組みが、どのように蓄積されていくのか）。"

○学校実習を中心とするコアカリキュラムをつくるべき。

○授業研究分野に関して、教職大学院では、スクールリーダーの資質能力向上のために校内授業研究の在り方に関するものを必須として位置づけるべきである。「学校マネジメント」「教科指導」という枠組だともれてしまう可能性がある。マネジメントと授業をつなぐものとして、今度の協力者会議「大学院段階の教員養成の改革と充実等について」（報告）

H25.10.15

○理論と実践の融合を図るためのカリキュラムの構成に課題がある。実践面に比重がかかり、理論面を深める方策を検討中である。

○共通5領域の中で、第1～第3領域を中心に平成26年度からのカリキュラムの見直し(カリキュラム構造の組み直し)を行う予定である。

○大学と教育委員会・学校が連携協力して共働で実施する授業…ex.教育実践研究（新卒学生、現職学生を対象に）

○学部新卒学生が見事採用されても、1年間でバーンアウトする者が岡山では2ケタになりそうな状況にあると聞いている。問題を一人で抱え込まないで、チームで解決するプロジェクト授業を模索中である。"

○現在、情報・ICT教育を共通領域に加えているが、「学級経営・学校運営」に入れることは少し不自然である。また、特別支援教育、国際理解教育なども共通領域に含めたいが、現行制度下では、単位数の関係で課題が多い。